

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(安心と尊厳のあるその人らしい生活)を玄関と詰所に掲げ、法人理念とともに、朝礼時に全員で唱和して実践している	法人の理念に加えて、事業所独自の理念を掲げています。更に法人からの月間目標、日々の目標を朝礼時に確認しながら唱和するなど、職員全体での共有に努めて日々の実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を行ったうえで、併設施設や保育所との交流を行っている。また、近隣農家の方との交流がある	併設の病院や老健などが同一敷地内に建っている環境で、自治会活動などは難しいものの、事業所に面した地域の農家の方々などから、野菜栽培のアドバイスを得たり果物を分けて頂いたりなど、日常的な交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るまち作りを目的にRUN伴へ参加。認知症の啓蒙活動を行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者統計・会計報告・活動状況の報告を行い、各立場からの意見を頂き、サービスの向上に活かしている	市の職員、地域の代表、入居者家族等が参加した運営推進会議を、現在是对面方式で実施しています。不参加者へは事前に意見等を確認し、実施後には議事録を送っています。運営状況や入居者の様子が分かる資料を準備し、意見などを運営に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、当家の実情やケアサービスについて話し合っている。事故等があれば速やかに市町村担当者と連絡を取り、実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	2ヶ月に1度の運営推進会議にも、市の介護保険関係の担当者が出席して、意見交換や連携等の機会としています。事業所内で起きた報告が必要な事故についても、遅滞なく市に届け出て、必要な助言などを得ています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束に対する考え方を共有し、日常ケアにおいて、入居者主体の行動・尊厳のある生活に努めている	法人全体の各委員会にグループホーム職員も担当毎に加わり、身体拘束委員会にも参加しています。法人の立てる1日の目標の中にも、身体拘束をしないケアに繋がる内容が幾つも掲げられていて、職員間で日々意識し合って共有しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、虐待について話し合う機会をもち、高齢者虐待を広くとらえ、防止・対応をはかることに取り組んでいる。カンファレンス時の確認や職員の面接を通したメンタルフォローを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して制度について学習している。日々の入居者の状況を他職種(看護師、リハビリ職員)とカンファレンスで共有し、個々の必要性を協議している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当相談員より、丁寧に説明し、都度質問に答え、同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や電話にて意見や要望を聞き取り、検討を加えながら運営に反映している	運営推進会議に家族参加もあり、会議で出た提案などは職員会議等で取り上げています。面会や連絡時の意見収集以外に、家族向けのアンケートの実施も今後の検討事項に挙げられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月ミーティングを設け、各階職員のヒアリングを行い、業務へ反映している	管理者が意識して、定例の会議やミーティングで各職員が経験に関係なく、発言しやすい関係を作っている他、職員個別の年度目標に対して年2回の面談では、目標以外の意見や相談も聞くようにして、提案などは運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と話し合う機会を作り、日頃の業務環境等の思いを聞きとり意見交換を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人と話し合い、法人内外の適切な研修へ参加している。また、eラーニングを利用し必要な研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内老健や有料の介護スタッフとの交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員(介護計画作成者)による、利用前面談を行い、ご本人のニーズを汲み取るようにしている。自宅での過ごし方を具体的に聞き取り、困りごと、改善点などを共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との相談及び面談(管理者・相談員等参加)を行い、ニーズの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご家族の各種情報を基に入居前検討会(管理者・相談員・看護・リハビリ職員・管理栄養士)を開催し、必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに助け合うことに生きている意味があると考え、お互いが気にかけて支え合える関係でいられることを心掛けている。個々の性格、能力を理解して役割を決めて生活を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに相談し合えることで施設内生活へ家族の思いを取り入れられると考え、施設での生活情報をもとに相談し、共に援助の工夫を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院への外出や友人との電話等にて、馴染みの人の話をしたりして関係が途切れないように努めている。	行き慣れた理美容へのお出掛けや、家族以外の知人の方の面会も可能など、入居以前からの関係性の継続への支援もしています。併設の同敷地内の保育所の子ども達との行事も定期的に行うことで、親しい関係性を大切にしています。	現在は玄関入り口で決まった時間内での、直接の面接を再開していますが、ご家族の希望もある以前のような居室での面会などが、今後も実現できるように検討を継続されることに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、生活歴、認知症度等から関係性が作りやすくなるよう、座席・役割の工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先へ様子を伺いに行き、必要に応じて相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の自宅での過ごし方を聞き取り、思いのままに過ごしていただけるよう努め、興味や関心ごとを整理して、出来る事を主体的に行えるように工夫している	興味・関心シートなどを活用して、入居時から更新を繰り返して思いや意向の把握に努めています。手芸や編み物、園芸などの趣味や、食事の嗜好や飲み物の甘さ加減など、個別での実施や配慮ができるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしが出来ただけ維持出来るように入居時やケアプラン見直し時には、ご本人ご家族からの聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の発言や行動、心身状態を記録し、起床・就寝時間等、個々に申し送りしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには、介護職員・相談員・リハビリ職員が参加し、各職種にて意見を出し合い計画書を作成している。家族には、電話や訪問時に意見を聞き計画に活かしている	事業所の職員だけでなく、併設老健とも連携して、身体機能や嚥下などの評価、訓練内容などの助言を、介護計画の作成やモニタリングなどの際に参考にするなど、チームで多角的な支援に取り組んでいます。	コロナ禍以降は電話や面会時など家族からの情報収集や計画の説明・了承に留まっているとのことで、課題とされている以前の様にカンファレンスへの家族参加を再開されることに期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や体温表、ケアプラン実施表を利用し情報を共有しながら実践へ反映している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談員・介護支援専門員が面談し、ご本人やご家族の要望を把握し、状態に即した支援を行っている。整形・皮膚科・歯科等へ受診、必要な物品準備(リース・買い物)等			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力を得ながら、入居前に行っていた美容院でカットしてもらったり、近隣のスーパーへ嗜好品の買い物など、元々の生活を大切にした支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診を基本に、従来のかかりつけ医を希望される場合は、家族にて対応している	皮膚科、眼科、耳鼻科、内科など、従来からのかかりつけ医にも受診できるようになっています。受診の際には家族への協力もお願いしていますが、送迎や付き添いなど必要な支援も事業所で実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置して、いつでも相談できる体制をとっている。 併設病院があり、かかりつけ医がいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、入居中の生活状況等を先方に情報提供している。また医療機関の相談員や医師と連携を取り、入院見込み期間の把握やスムーズな受入れに向けての準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態変化時には、必ずご本人やご家族・かかりつけ医・職員・相談員等が、今後の生活の方向性についての話し合いを行っており、老健や併設病院などを活用し、可能な限り長く入居生活を送って頂く関わりを持たせてもらっている。	終末期ケアは法人の方針として、開設時より実施していないことは入居前に説明して理解を得ています。重度化や終末期に対しては、併設の老健や病院、関連法人の特養とも連携して、家族等のニーズに応えられるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の事故防止研修への参加している。また、緊急時マニュアルがあり、看護師等の指示を受ける体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設老健施設と合同で火災も含めた災害避難訓練を実施。年一回消防署からの指導もある。また、食料の備蓄もしている。	火災だけでなく地震、水害を含め併設施設と合同で設定を変えた訓練を実施している他、事業所単独での災害訓練も実施しています。食料品の備蓄以外に自家発電設備を更新したり、物品なども管理しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴、見守り介護を実践し、ご本人のプライドを傷つけないように配慮した関わりや前向きな言葉掛けを行っている。	排泄ケアは夜勤帯以外、入浴も原則同性介助を実施しています。排泄も個室のトイレで支援して、入浴も終始1対1で支援して、プライバシーへの配慮も徹底しています。言葉遣いなども職員が互いに声を掛け合い意識するなど、尊厳を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、服装・入浴・散歩・行事参加等、ご本人の意思で選んで頂けるような場面をできるだけ多く設定し声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の見守り介護の中で、ご本人の表情や言動から思いを汲み取り、活動や体操等は自由参加で、散歩や折り紙、習字、裁縫等個々の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装等はご本人の意思に任せ選んでもらっている。カット等依頼があれば、支援している。化粧品も家族協力にて以前から使っていたものを使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は主に入居者の方々と協力し、調理・盛り付けを行い、片付けは個々の能力に応じて出来る支援を行っている。	下処理された食材が併設の厨房から届き、調理から盛り付け、後片付けまでを入居者と一緒に日々実施しています。お米は入居者が洗って、ユニット毎に炊飯しています。条件食についても、併設厨房と連携して個別に提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握して、普段と違う時などは、記録をもとにご本人の生活リズムを考慮しながら、嗜好に合う食品などで無理なく摂取できるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力や過去の生活に合わせた声掛けや誘導などを行い、支援している。 場合によっては、歯科衛生士に相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の原因を考え、個別に支援している。また、定期的にリハビリ職員の評価のもと、動作確認を行っている	排泄に関して時間や量を個別に記録して、個々のタイミングで原則トイレでの排泄を支援しています。リハビリ職員による定期的な動作評価や、看護職員による排便コントロールなど併設老健とも連携した支援が実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が食物繊維の多い、食べやすい食メニューにしていると共に、好みに合わせ飲み物の提供を実施。排泄の確認が曖昧な場合は腹部観察を看護が実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、いつでも入浴出来るよう準備している。 入浴はご本人の希望に合わせ、一人ひとりお湯をはりかえて楽しんで入っている	週に最低2回、平均3回程度ですが、臨時的な入浴の機会を含めて回数制限は設けていません。声掛けして入浴してから終わりまで職員と1対1で入浴を実施しています。個別に入浴剤など使用して好みにも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体力に合わせて、休憩や午睡の声掛けを行い、個々の生活リズムから睡眠のパターンを把握して、安眠できる環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・効果、注意事項を確認しており、医師の指示通りに服用できるように支援している。内容が変われば、どのような症状に注意すべきか医師に聞き、様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の生活歴から活躍できる場面(畑・家事仕事、生け花・裁縫等)を設定し、役割を感じながら生活していただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人からの外出希望があれば、ご家族に連絡相談して実現出来るように支援している。外出してドライブや買い物、又近隣への散歩等の支援をしている	コロナ禍で中断していた外出も、家族と出掛けたり職員とスーパーへ買い物に出掛けたりできるようになっています。敷地内のスペースでの外気浴や、畑での果物や野菜の栽培などにも、日常的に事業所外に出る機会となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望により、自分で管理されている方もおられる。 法人保管システムを利用し必要に応じて、ご本人にお渡しして使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば、いつでも利用できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の壁画を作成し、季節の花や、雛人形等を置き、生活感や季節感を工夫している。	温度や湿度、採光などに配慮した過ごしやすい共用スペースとなっています。季節毎にひな人形や入居者で作成した貼り絵などの制作物を掲示して、季節感にも配慮がされています。所々に生け花や植物も飾っていて、居心地のよい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ等置き、リビングのテーブルは入居者の相性や食事のペースを考え設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活されている頃から使用されていた、テレビ・写真・鏡・ぬいぐるみ等の生活用品を持ち込まれ安心した生活をされている。	事業所で準備したベッド、タンス、机とイスが設置され、机で趣味活動などができる様に配慮しています。清掃もできる部分は入居者と一緒にするなど、清潔に保たれています。趣味の物、仏壇、タンス、家族写真など持ち込まれその人らしい空間作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間に手すりを設置し、段差のないバリアフリーになっている。		